

鳥羽市の防災の取り組み～4つの対策～

市では、以下の4つに重点を置いた防災対策を行っています。

(1)津波からは自分で逃げるしかないこと

津波から高台へ逃げるための「避難路」や、その地の海拔と、どの方向へ逃げたら良いかを示す「海拔兼避難誘導シール」を整備しています。また、家具などが転倒してその下敷きになったり、行く手を阻まれてしまうことなく津波から逃げられるよう、家具転倒防止器具支給(取付)事業も行っています。



津波避難路

さらに、みなさんに防災意識を持ち続けていただくため、一斉津波避難訓練や防災講演会、出前とくなどを実施し、啓発に努めています。

(2)集落が孤立すること

防災倉庫および備蓄品の整備を行っています。また、地区ごとに防災担当職員を指定し、地域と連携しやすいようにしています。さらに、災害時に情報を伝達する手段を確保するため、同報系防災行政無線、移動系防災行政無線、衛星携帯電話、とばメール、緊急速報メール、防災ラジオなどを充実させています。



防災講演会の様子

(3)観光客を守らなければならないこと

観光事業所への防災活動支援(防災意識啓発)を行ったり、外国語標記の避難誘導看板(英語、韓国語、中国語)を整備しています。

(4)他県からの支援が必要なこと

岐阜県美濃市、長野県大町市、長野県飯島町、兵庫県三田市と災害時相互応援協定を締結し、災害時に十分な連携がとれるよう、日ごろから訓練などで連携しています。

総務課防災危機管理室

☎ (25) 1118

一人一人が備えてこ!

防災力UP!鳥羽

vol.11

特色ある取り組み

〈自衛隊との連携〉

災害が起きたときには、自衛隊との連携が不可欠です。昨年度は、各町内会・自治会や自主防災組織のリーダーを対象に、自衛隊のヘリコプターを使った防災訓練や、明野・久居駐屯地を訪れて、自衛隊の施設や装備の見学、隊員から直接話を聞く機会を設けました。



〈津波避難時における夜間対策〉

災害が起こるのは日中とは限りません。夜間に災害が起きたときに避難路を照らすよう、昨年度から既設の避難路や手すりに順次「蓄光パーツ」を整備しています。蓄光パーツとは、光を蓄え、暗闇で光を発する部品のことです。



教育者の父の元に育ち、学校に通うことのできたマララさんは、成長するにつれ、このような社会の在りかたに疑問を抱くようになり、イスラムの教えに反しているなどとして、女性が教育を受ける権利を否定しました。

昨年7月、国連にてパキスタンの少女マララ・ユスフザイさん(当時16歳)が演説を行い、ノーベル平和賞の史上最年少候補者として注目されました。マララさんが生まれ育ったパキスタンのスワート地区は、男性優位の部族の慣習が根深い地域です。ここでは、女性は年ごろになると人前での肌の露出を禁じられ、一人で外出することも許されません。また、ほとんどの幼い少女は満足な教育の機会も与えられず、家で労働をさせられ、低年齢での結婚を余儀なくされます。

「無学、貧困、そしてテロリズムと闘いましょう。本を手に取り、ペンを握りましょう。それが私たちに託された最も強力な武器なのです。一人の子ども、一人の教師、一冊の本、そして一本のペン、それで世界を変えられます。教育こそがただ一つの解決策です。エデュケーション・ファースト(教育を第一に)その姿は世界中の女性たちに勇気を与えています。」

これにより、マララさんも学校へ通うことができなくなりました。当時11歳だった彼女は、多くの大人が押し黙る中、勇気を持ってこの厳しい現状を訴えました。このことがきっかけで、イスラム過激派の標的となった彼女は、銃弾を受け重傷を負い、生死の境をさまよいますが、なんとか一命を取り留めます。演説の中で、マララさんは言います。

イコール
パートナー
シップ

Vol.114

マララ・ユスフザイ

市民課人権・生活係
☎ (25) 1126